

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期
産学連携・技術移転特論		Z 139	1 単位	1 学期
University-Industry Collaboration and Technology Transfer				
科目分野		課程領域		
技術経営・AI		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
高橋真木子	-	メールアポイントにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)		
技術商業化特論	技術経営要論	技術と商品・事業開発特論
知的財産契約特論	アントレプレナーシップ特論	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

オープンイノベーションを実際の企業活動に実装するためには、社外の新たなステークホルダーとの連携を、いかに既存の社内活動と融和させるかがキーとなる。特に、大量の情報が流通し技術の細分化が進む現在においては、企業とは全く異なる大学等の異質な組織・セクターとの協働が必須だとされている。しかし実際には、セクターの違いを乗り越え真に価値ある協働の成果を得るのは容易なことではない。本講義では、大学と企業という全く性格の異なるセクターがWin-Winの関係構築を実装するための、理論的な整理、主要な連携スタイル、応用的な実践事例を、世界的なトレンドをふまえて解説する。実務に役立つ共同研究契約交渉の実際、現場で求められる知財マネジメントに加え、産学連携・技術移転業界の概観、関連する政策の概要を理解することを目指す。第2、3、5回目にはトップクラスの現役実務者より、日米の相違も含め事例含めて現状を紹介していただく。これに担当教員の解説を加えることで、受講生の広範な興味に柔軟に対応する。なお、技術商業化特論と合わせて受講することで、日本における産学連携の全体像を包括的に理解できる。

到達(修得)目標

以下の項目について、実際の業務イメージ、基本となる考え方を理解することを目標とする。

- 1) 知財を中心とした企業と大学の研究開発マネジメント
- 2) 大学発の技術(知財)のライセンスとマーケティング

受講対象者

企業等において、社外連携、研究開発、知的財産の管理活用に携わる方。大学知財部、TLO等、研究機関において知的財産マネジメント、研究企画、戦略策定を担当するコーディネーター、リサーチアドミニストレーター等、関連業務に関わる方。また将来的にこれらの業務を目指す方。これまで大学などとの協働業務を直接担当したことがない方、知財の知識がまだ浅い受講生も歓迎する。

履修上の注意事項やアドバイス

- ※ 本科目は、2コマ連続で全4回の講義となる。開講日時に注意すること(合計8コマ)。
- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント		Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	○

プラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	講義		
2	グループ学習、ディスカッション		

評価の方法

(総合評価項目と割合)		評価の要点	
平常点(出席含む)	50%	毎回、事務室より出席簿を準備する。平常点には、授業内での的確な質疑応答の内容を評価する。発表及びレポートでは、授業の進行に合わせて、内容の理解度を確認していく。	
レポート(1回)	50%		
合計	100%		

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	テキストに該当する資料は、毎回授業時に配布する。	事前の予習より、授業中の思考、検討が重要である。
参考図書 (購入は任意・購読推奨)	授業中に紹介する。講義全体に関係する参考書としては、 産学連携概況把握には「産学連携」原山優子編著、東洋経済新聞社(2003) 企業活動、知財の観点からは「イノベーターの知財マネジメント」渡部俊也著 白桃書房(2012) など	
参考URL		
適宜紹介予定		

コマ	学習内容(主たる内容(●)と到達目標(◇))	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	●本科目の全体構成:21世紀における科学技術イノベーションの必要性、日米欧3極の科学技術政策のトレンドを概観する。また簡単な質問形式で受講生のニーズを把握し、外部講師の話題提供や2回目以降の講義内容に反映する。	事前配布のケースを通読して参加すること(オープンイノベーション体制による産学連携の研究開発プロジェクト)	高橋	180分
	イベント 講義、miniグループ討議			
	●日本の企業と大学の協働の実際:大学技術移転業界で20年近い経験を有し、ライセンス・マーケティング・コーディネートや各種契約交渉など産学連携に関するすべての実務に精通する平田氏より、企業との連携コーディネート、成功例や醍醐味、苦労などを直接伺う。			
	イベント 信州大学学術研究・産学官連携推進機構 平田徳宏氏による講義			
3.4	●日本の大学TLOの実際:最もアクティブに活動し代表的成功例といわれる株東大TLOの創設者山本社長に、プレマーケティング、ライセンスなどTLO活動の実際、成功事例をその醍醐味や苦労も含めて直接伺う。		高橋	180分
	イベント (株)東京大学TLO社長山本貴史氏による講義、リアクションペーパー			
	●企業と大学の共同研究:第2、3回の外部専門家による講義のフォローアップに加え、技術分野・産業特性による連携スタイルの相違、共同研究に置ける基本的な論点をカバーする。大学と企業というセクターの立ち位置とその相違、研究開発への知財専門家の貢献の基本的なポイントを、実際に活用されている契約書も参考に理解する。			
	イベント 講義、miniグループ討議			
5.6	●アメリカの大学ライセンス有力大学であるニューメキシコ州立大学で、技術移転、大学の知財管理・活用の豊富な経験をもつ星氏より、日本との対比を含めた経験事例を伺い、アメリカトップレベルの公立大学の知財管理・活用のリアルを理解する。さらに、大学研究者の日本の違いについても視野を広げる。		高橋	180分
	イベント 合同会社幸星 星エリ氏(元ニューメキシコ州立大学ライセンス担当)による講演			
	●大学の知的財産マネジメント:大学における知財マネジメントの概況把握、政策的、歴史的背景を紹介する。オープンイノベーションの時代に、知財の観点からもその重要性が増す、知財創出の源としての大学の位置付けを理解する。			
	イベント 講義、リアクションペーパー			
7.8	●ケースに基づくグループディスカッションと解説(1)。外部講師による講演と合わせて、現在の日本における企業と大学の連携の実際を理解し、自組織にとって最適な連携像を概観する。		高橋	180分
	イベント 講義、グループ討議			
	●ケースに基づくグループディスカッションと解説(2)。上記に加え、産学連携専門人材に重要となるマネジメントスキルや専門知識、資質を把握する。また、代表的な利益相反事例にも触れ、リスクマネジメントについても考え方を理解する。			
	イベント リアクションペーパー			

※ 講義日程は、学事ポータルでの講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
 ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。